

「地域とともにある学校」をめざして

下関市立吉見小学校

学校運営協議会について

①実施回数

原則として学期に2回開催

②主な協議内容

- ・平成30年度の活動計画（第1回）
- ・学校の課題および学校支援について（第2回）
- ・授業参観および給食の試食（第3回）
- ・吉見中学校区内の学校運営協議会合同研修会（第4回）
- ・学校評価と平成31年度の学校運営方針について（第5回）

③コーディネーターの活動

- ・学校運営協議会開催の前に、CS会長、校長、教頭と打合せをしています。
- ・議題に関係する担当者と事前に打合せを行っています。
- ・学校支援活動を実施するため、学校の担当者と打合せをしたり、支援者との連絡調整をしたりしています。
- ・学校支援活動を実施する際には、参加者への連絡や道具の準備、後片付けを行っています。
- ・学校の要望により、学校支援ボランティアの募集をしています。



特色ある活動

吉見小学校のコミュニティ・スクールの取組は、①ビオトープ造成 ②カッター一部創設 ③読書ボランティア ④保護者・地域も参加する漢字検定 の4つですが、今回は読書ボランティアの活動について紹介します。

- ◆ 読書ボランティアの方は、毎週月曜日の朝学の時間に1, 2年生を中心に「朝の読み聞かせ」をしてくださっています。

また、吉見地区まちづくり協議会の協力を得て、低・中・高に分かれた全学年

での読み聞かせも行いました。保護者や地域の方々にも是非聞いてもらいたいと思い、学校便りや学年便り、ホームページで参加のお誘いをしました。

講師は勝山公民館の「あおやま文庫」で活動をされている黒瀬圭子先生をお招きしました。絵本の読み聞かせもありますが、昔話を子供たちの表情を見ながら語るお話でした。いつもと違って絵本なしで、初めて聞く語り口調の昔話に子供たちは興味津々で、とても真剣に話を聞いていました。



来年度に向けて

学校だけでなく、地域のまちづくり協議会の方とも協力して企画をした「読み聞かせの会」でしたが、地域や保護者の参加が意外と少なく残念でした。コミュニティ・スクールとしての取組をさらに周知していく必要があると感じています。

地域の学校「吉母小」

～学校は地域のために、地域は学校のために～

下関市立吉母小学校

学校運営協議会について

主な協議内容

- ・本年度の学校経営方針の説明と活動計画（1学期）
- ・学校行事・活動内容について（2学期）
- ・本年度反省・来年度学校経営方針について（3学期）
- ・学力向上・授業力向上について（ユニット型研修会：年3回）

特色ある活動

◆「ふるさとを愛する心」の育成に向けた取組

- ・北九州市立合馬小学校との交流「たけのこ出迎え式」、みんなで地引網を引く「海水浴交歓会」は今年度59年目を迎え、親子3代にわたる地域あげでの伝統交流行事となっています。
- ・自治連合会・長寿会・漁協等地域団体と協力し、吉母の宝である黒嶋海岸の清掃を行っています。きれいになった海岸に、地域の方が育ててくださった浜木綿の苗を、毎年みんなで植栽しています。
- ・まちづくり協議会吉母部会による、吉母の歴史・史跡・文化遺産などがぎっしり詰まった「吉母かるた」ができあがりました。全児童のかるた文やイラストも採用されています。11月の教育講演会でお披露目され、地域の皆さんと一緒にジャンボかるた大会をして大いに盛り上がりました。

◆ふるさとの“名人”に学ぶ

- ・毎年6月には吉母の砂浜で集めた貝殻を使った「貝殻アート」を教えていただき、合馬小学校のお友達へのプレゼントづくりを行っています。今年はフォトフレームを作りました。
- ・12月には地域在住の竹細工名人をはじめ長寿会・萌え気会の方々をゲストティーチャーに招き、「ミニ門松づくり」「ふれあいしめ飾りづくり」を行いました。材料も地域の皆さんが準備してくださっています。
- ・1月、地元書道家の指導のもと行われる「ジャンボ書初め大会」は今年で4年目になり、吉母の年初めを飾る風物詩になりつつあります。

来年度に向けて

来年度も引き続き吉母のすばらしい自然、地域人材、極小規模校の特性を生かしながら、学校・家庭・地域が一体となった様々な行事や活動を行うことで、「地域に開かれた学校づくり」とともに「地域の活性化」を図っていきます。



たけのこ出迎え式



吉母海水浴場での地引網漁



黒嶋海岸での浜木綿の植栽



吉母ジャンボかるた大会



吉母貝殻アート



「地域と育むたくましい蓋井っ子の育成」をめざして

下関市立蓋井小学校

学校運営協議会について

◆熟議の実施（実施日：平成30年10月24日（水）参加者：12名）

<学力部会>

テーマ 子どものコミュニケーション能力を伸ばすための学校・家庭・地域の連携の在り方

- (1) 世代間交流について
- (2) ふれあいルーム（CSルーム）の活用について

<心の部会>

テーマ たくましい蓋井っ子を育むための行事等における学校・家庭・地域の連携の在り方

- (1) 地域連携について
- (2) 学芸会・感謝祭の運営について
- (3) しめ縄づくりの協力について
- (4) 新年子ども祭り（どんと焼き、神輿）について

特色ある活動

◆CSルーム（ふれあいルーム）の創設

平成29年度から今年度にかけて、体育館後方の更衣室内の不要物や破損物を全教員が協力して廃棄したり、整理したりすることで、使用可能な空間を確保しました。数年来にわたり、様々な種類の破損物品等が保管されておりましたが、今ではCSルーム（ふれあいルーム）として様々な目的で使用できる多目的教室になりました。使用スペースの少なかった本校にとって、教育活動や会議、地域の方とのふれあい、読み聞かせ等に効果をもたらしています。



CSルーム

◆「ふるさとを愛する心」の育成に向けた取組

本校では、地域とともに活動する多くの行事がありますが、平成29年度から本年度にかけて、全教員の協力の下、「ふるさとを愛する心の育成」に着目して、行事の見直しや児童への働きかけを工夫・改善を行ってきました。行事ごとに目的を設定し、目的に沿って、行事における事前・事後の学習の進め方を徐々に改善しています。例として、学芸会では、全学年が島の環境や人とのつながりをテーマにした学習発表を取り入れるなど、ふるさとを愛する心の育成につながるよう工夫しました。



感謝の心を伝える発表の練習

また、感謝祭では、児童による感謝の気持ちを島民の方々に伝える活動を昨年度より多く取り入れるなど、目的に合わせて行事の内容を改善しました。

来年度に向けて

行事の見直しや事前・事後学習の工夫・改善、地域との連携強化等を通して「ふるさとを愛する心」の育成に一層つながるように全校体制で取り組んでいきたいと考えています。

地域の支える、地域を支える、地域と共にある学校

下関市立吉見中学校

学校運営協議会について

① 委員の構成

12名（自治連合会長、吉見支所長、校区自治会副会長、水産大学校教授、県議会議員、吉見中ふるさと協育ネット会長、民生児童委員長、小学校区代表、現PTA会長）

② 実施回数

定期3回、小中合同1回

③ 主な協議内容

- ・本年度の学校経営方針（4月）の承認。
- ・小中合同学校運営協議会の取組について
- ・前期学校評価（8月）並びに後期学校評価（2月）
- ・来年度の学校運営について



④ コーディネーターの活動

- ・学校の諸行事への地域への広報・調整
- ・CSの企画（熟議、地域合同避難訓練）について広報・連絡・調整
- ・まちづくり協議会との協力・調整

特色ある活動

◆地域の支える学校（生徒・園児・児童の教育への支援活動）

① 花一輪運動（花心）

月1回保護者・地域の方が花を持ち寄り、生徒と共に花を生け、各学級や廊下に飾っています。卒業生の保護者を中心に地域の活動として定着しつつあります。

② 高校受験に向けて面接指導

3年生に対し、学校運営協議会委員が面接指導を行いました。生徒は緊張感のある面接を体験し、面接官である学校運営協議会委員の方々は、中学生の意見や考えや彼らの真剣な姿に触れることで、生徒や学校への理解が深まりました。

◆地域を支える学校（生徒・学校が地域の活性化・安全に貢献する活動）

① まちづくり協議会との協働による「地域活性化」に向けての取組

地域から依頼を受け、校区の無人駅を盛り上げるイベントや、地域の花壇づくり、夏祭りに生徒がボランティアで参加しました。行事によっては、生徒が企画から参画しており、地域の担い手として期待されています。

② 子どもと大人の地域合同津波避難訓練

今年で7回目。校区内の全園児・児童・生徒と地域の方の合同避難訓練。消防分団や見守り隊、自衛隊下関基地隊や北消防署、下関警察署、水産大学校などの本格的支援を受け、3つの避難場所に合計600名が訓練集合しました。



来年度に向けて

吉見地区ふるさと協育ネットの取組を充実させ、各校の学校運営協議会・各校PTAが連携し、地域全体としての一貫した教育活動を推進していきたいです。また、地域での諸活動を通して、これまで以上に地域を愛し、地域を担っていける人材の育成に努めていきます。